

Intertextile 上海 2011「ジャパン・パビリオン」開催報告

- [会期] 2011年10月18日(火)～21日(金)
- [時間] 9:00～17:00 *最終日は14:00まで
- [会場] 上海新国際博覧中心
- [主催] 一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構
独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)
- [後援] 経済産業省
- [運営協力] メサゴ・フランクフルト(株)



【 Intertextile 上海 2011 】

世界最大規模のアパレルテキスタイル総合見本市「Intertextile 上海 2011」が開催された。昨年は上海万博の開催中であり、尖閣諸島問題による反日デモが中国各地で行われた時期に開催されたが、今回は何事も無く開幕を迎えた。本年度は24ヶ国・地域から2,700社以上の出展者が、約150,000㎡のスペースをフルに活用して展開。ホールW1-2はドイツ、イタリア、日本、韓国、台湾、タイ、トルコ、インドネシアに加え、今年から英国、スペインがナショナル・パビリオンを形成。W2-3ではINVISTA、LENZING等のファイバーパビリオンも設けられている。W1～3の国際館を運営しているメッセフランクフルト(HK)は、トレンドコーナーやVIPラウンジをW2に設置。更に、初日のVIPツアーや高級ホテルでのVIPディナーなど展示会のプレゼンスを高めている。ホールW4-5、E1-7、N5の10館は中国国際貿易促進委員会紡織行業分会(CCPI.tex)が主催。レディス、カジュアル、シャツ、スーツ、スポーツ/機能、デニム等のカテゴリー毎に分類された中国国内企業が出展。服飾資材・アクセサリゾーンはE7と竣工間もないN7ホールを加えて拡張された。同ゾーンには国内・海外含め約400社が出展。

【 Japan Pavilion 】

今回のJapan PavilionはJETROの協力を得て共同運営にあたった。W2ホールのベストロケーションに日本の優れた企業が集結し、トレンド編集された素材を提案するJCブースを核に日本素材を発信。出展者支援として現地紙への広告掲載、ガイドブック(中・英文)による出展者紹介に加え、JETRO招致の有カバイヤーとパビリオン出展者とのビジネスマッチングを実施。毎回拡大してきた「ジャパン・パビリオン」では、日本素材の高い技術力、感性に評価を得る一方、中国マーケット志向とのギャップや価格面で課題は残る。しかし、継続出展による認知率向上により、昨年よりも来場者が多く、特に機能素材や環境対応、表面感のある商品に関心が集まった。



◆ 出展規模

- JFW-JC(ジャパン・トレンド)+JETRO 広報ブース(90㎡)
 - ビジネスコーナー 商談ブース集積: 78小間+168㎡
 - 出展企業・団体: 35件/36社・団体
- 計 107 小間(9㎡換算)

◆ JFW JAPAN CREATION ブース

『JAPAN PAVILION』の中心に位置するJFW-JCブースは、前週開催のJFW-JC(東京)トレンドコーナー同様にカラーアクリルの柱でブース周りを囲う作りとした。昨年までに比べて色を多用し、三方向から入れる開放的な作りとした事で明るい雰囲気演出。更に、“元気な日本”を印象付け

るシンボルとして赤い球体に「I LOVE JAPAN」の文字を入れた。ブース内はトレンド別に編集された出展者の素材とカラー、国際競争力の高いECO 素材、デザイナーとのコラボレーションによるデニムのガーメントを展示し、来場者の日本素材への関心喚起と各出展ブースへの誘引を計った。



◆ JETRO ブースと招致バイヤー

JFW-JC ブースの奥に JETRO ブースを配置し、招致バイヤーとの打合せ用のテーブルを用意。壁面には震災復興に関するパネル展示と、風評被害を防ぐ動画をモニターにて放映。また、JETRO 招致バイヤーが始めて実施された。JETRO 上海、青島センター及び上海マートの協力による招致バイヤーが会期を通じて来場。特に2日目の上海マート招致バイヤーは専用バスに乗り込んでの来場の為、一度に大人数のバイヤーが押しかけ混乱した。次回以降はマッチングの方法や、事前に出展者の意向を聞き“量より質”に重きを置くなど改良すべき点はあるものの、まずは第1回目を行った事に意義を感じる。尚、2日目には JETRO 主催の交流会(夕食会)が開催され、JFW、上海 JETRO、出展者、上海マートなど 29 名が参加した。



- JETRO 招致有力バイヤー: 46 社・ブランド
- 同上商談件数: 224 件



◆ Japan Pavilion 出展者

フェア全体の入場者数も増加傾向だが、Japan Pavilion も昨年を上回る数のバイヤーが初日朝から訪れ、活発に商談が展開された。ジャパン・パビリオンの認知度も定着し、今年は開場して直ぐに当パビリオンを目指して来るバイヤーが多かった。今年の出展者の特徴は継続出展者と、上海に現地法人を持つ企業が多い点にある。持ち込む商材や見せ方の工夫、中国人や展示会自体へ

の慣れという点では、やはり出展履歴の浅い企業に比べてアドバンテージがある。また、アンケートによる人気企業は 1 位:小紋貿易(宇仁繊維)、2位:サンウエル、3位:瀧定名古屋と日本独自のストック型コンバーターが続き、4位:林与、5位:東レと何れも継続出展者ばかり。特に、林与は社員数10人以下の企業ながらJFWが出展し始めた3年間継続出展し、中国人スタッフをブースに常駐させてビジネスを展開。また、現地法人のない企業も、同展に出展している商社の駐在員にエージェン機能を委託する事で顧客導引を図る等、各社様々に工夫して出展している。

昨年にも増しての円高にも関わらず、各出展者の輸出抵抗力は徐々に高まっている。また、中国アパレルの中で日本素材へのニーズが高まっている事と、実際に買えるアパレルが増えたためか、継続出展者は軒並み小間数を増やして出展する傾向にある。



Japan Pavilion の中でローズペース(自由設計)での出展が、東洋紡エクスラン、旭化成せんい、日清紡、東レ、モリリンの5社。特に、東洋紡と旭化成の工夫を凝らしたプロモーションは、多くの来場者から注目を浴びていた。



◆出展社一覧

旭化成せんい(株)、一村産業(株)、宇仁繊維(株)/小紋貿易(上海)有限公司、NI 帝人商事(株)、熊澤商事(株)、倉敷紡績(株)、サカイオーベックス(株)、(株)サンウエル、ジャクテック協同組合、一般社団法人ジョイント・尾州ブランド、第一織物(株)、瀧定名古屋(株)、田村駒(株)、Team GIFU、蝶理(株) テキスタイル事業部、津島毛織工業協同組合、(株)ティーエスカンパニー、東京織物卸商業組合、同興商事(株)、東洋紡績(株)/日本エクスラン工業(株)、東レ(株)、富田商事(株)、豊島(株)、豊島(株) 東京13部、日清紡テキスタイル(株)、(株)林与、前多(株)、(株)むらかみ商店、村田機械(株)、森菊(株)、モリリン(株)、山梨県絹人織織物工業組合 (50音順)

◆ 商談状況

- ジャパン・パビリオンでの商談: 約 4,189 件
 - 同上成約件数: 約 13 件
 - 同上成約見込み: 約 82 件
- ※2011 年 12 月現在

◆ Intertextile 上海 2011 来場者数 62, 000名(前年比 10%)

